



BORDERLESS FILM FESTIVAL

第4回 ボーダレス映画祭

Borderless Film Festival 2026

せんだいメディアテーク

Sendai Mediatheque

7F スタジオシアター

Studio Theater (7F)

2026年2月28日(土) 10:30-21:00 (10:00開場)

3月1日(日) 10:00-21:00 (9:30開場)

入場無料 Free of charge

※予告なく内容が変わることがあります。ご了承ください。

主催・お問合せ：門脇篤 Tel:080-4357-7035 kad@kadowakiart.com

共催：一般社団法人まちとアート研究所、TobiLala (とびらら)

助成：公益財団法人仙台市市民文化事業団

協力：ふとうこうカフェ in せんだいみやぎ (フリースクールふふる～む)、NPO 法人地球対話ラボ、

一般社団法人子どもアドボカシーセンターみやぎ、NPO 法人ふうどばんく東北 AGAIN、

一般社団法人アート・インクルージョン、PSI (ピア・サポート・インターラクティブ) 仙台、

Art Lab Ova、一般社団法人東北駆け込み寺、仙台イスラム文化センター、合同会社パレスチナ・オリーブ

映画祭スケジュール

2/1日
～3/1日

展覧会

連携企画として展覧会を開催。

週替わりで上映作品にまつわる展示を行います。

13:00～18:00 (不定休。詳しくはウェブで)

会場：東北駆け込み寺居場所ギャラリーペルティカ（仙台市いろは横丁）

入場：無料

2/2～8 「Strangers in Sendai 2021→2026」展

2/9～15 「パレスチナ・レポート」展

2/16～23 「獄中からの光 紋個展II」

2/24～3/1 「豊里アート小中学校」展

2/27金
18:00～

レセプション

監督をかこんでの交流の場です。

どなたでもご参加いただけます。

18:00～ 会費：1,000円 (高校生以下無料、予約不要、出入り自由、軽食付き)

会場：アート・インクルージョン

(仙台市青葉区一番町 3-8-14 スズキアバンティビル3F)

コラボ企画
TobiLala 主催による
「アジアカフェ」
も同時開催！

監督のふるさとや出品作品に
まつわる飲み物、食べ物を
ふるまいます！

2/28土
・3/1日

せんだいメディアテーク上映会

仙台で制作した約 10 作品および
世界各地から応募のあった 110 作品から 9 作品
合計約 20 作品を上映します。

上映の前後に監督トークがあります (一部)。

せんだいメディアテーク 7F スタジオシアター

2月28日(土) 10:30-21:00 (10:00開場)

3月1日(日) 10:00-21:00 (9:30開場)

入場無料・予約不要



上映スケジュールは
2/1より公式サイトで
公開いたします

3/1日
～3/8日

オンライン上映会

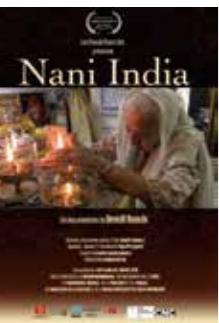
特設サイトにてせんだいメディアテークでの
上映作品から一部をオンライン上映いたします。

主催・お問合せ：門脇篤 080-4357-7035 kad@kadowakiart.com

コンペティション部門 Competition

世界にはさまざまな「壁」があります。目に見えるものもあれば、目に見えないもの、あることすらわからないものもあります。そうしたものを見るようにし、それがいかなるものなのかをともに考え、それを乗り越えたり、それとつきあっていくすべを考えていこうというのが「ボーダレス映画祭」です。

4回目となる今回は、コンペティション部門に世界33カ国から110作品が集まりました。この中から9作品を上映いたします。



インドのおばあちゃん

ブノワ・ラウル監督
(フランス、2023年、98分)

社会地理学者でもあるフランス出身の監督が、インド人女性と結婚したことで義母となった「ナニ・インディア（インドのおばあちゃん）」との関わりを10年かけて撮影したドキュメンタリー。デリーに一人で暮らす彼女は厳格な儀式に律せられた日々を送っていた。



ルート7

全辰隆（チョン・ジニュン）監督
(日本、2024年、31分)

秋田の国道7号線沿いにある小さな町で、ヨンホは母キヨンジャと50年間営んできたパチンコ店を開める決意をする。母を骨休めの海外旅行に誘うが、母は新潟に行きたいと言う。新潟港に着くとヨンホは、叔母のスンジャがここから北朝鮮へ渡ったことを思い出す。

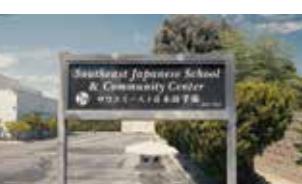


巡礼の季節

-ヒクリ、8000と20年

小林大賀監督
(日本、2024年、91分)

自身の人生における精神の癒しとは何かを求めてメキシコに渡り、ウイチャ族を訪ねたドキュメンタリー。彼らが「聖なる薬」と呼ぶヒクリは乱獲によって絶滅に瀕していた。ヒクリ収穫の巡礼の旅を追いながら、監督は自身の旅を重ね合わせる。



サウスイースト日本語学園の百年

ジェリフリー・ジー・チン監督
(アメリカ、2025年、27分)

創立100周年を迎えるカリフォルニアのサウスイースト日本語学園を描いたドキュメンタリー。第二次世界大戦中の日系人強制収容などの差別を乗り越え、生徒の減少や社会の変化に直面しながらも、アメリカで日本文化を伝えていく使命感を次世代へ伝えていこうとしている。



帰り道

リー・ヤッ・フン監督
(ホンコン、2024年、16分)

「トゥエン・ムン川は生涯を通じて変わらぬ私の伴侶」という監督が、その川辺を舞台に撮影したドラマ。帰宅途中、同時に携帯電話が使えなくなつた二人の若い女性の間のやり取りを、全くカットなしの16分にわたる長回しで描き切った秀作。



ザ・ボーダー

クヌッテ・ウェスター監督
(スウェーデン、2025年、22分)

スウェーデンとヨハネスブルグの美術アカデミーで学んだ監督が、紛争によってアルメニア東部に新たに生まれた国境沿いを撮影したドキュメンタリー。確かに存在し、越えられないにも関わらず、目の前に広がる風景の中あまりに抽象的な存在である「国境」を前に、それはいittaiかななる存在なのかと監督は問いかける。



ザ・マーク

ロッタ・ニーベルグ監督
(スウェーデン、2025年、8分)

トナカイは北極圏では生活の一部だ。スウェーデンの少数民族トネダリア出身の監督は、新法制定により、従来のトナカイ飼育が難しくなる中、真夜中の光の下で子トナカイに刻印をする一年で最も重要な伝統を守り続ける若きトナカイ飼い女性エッパの姿を美しい映像で描き上げる。

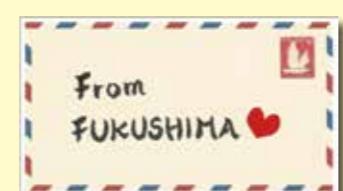


世界で一番

マリオン・スタンデファー監督
(フランス、2025年、87分)

パリで新たな人生を切り開こうとするギニア人移民ムクタールは、移民向けの学校で演劇ワークショップを運営するアメリカ人ソーシャルワーカーのマリオンと出会う。ワークショップで過去と向き合うことを強いられたムクタールが打ち明けた真実とは？

東日本大震災から15年 特別上映



From FUKUSHIMA ❤

櫛田洋一監督

監修：ともだち・カワノ

・コミュニティ

(日本、2023年、45分)

東日本大震災で福島は揺れ、津波、放射線の三重苦を味わった。福島県外に自主避難した人・とどまつた人、脳性まひがある人、アフリカンドラムを演奏する人、そして、たくさんの支援を受けたことに感謝する人たちが、どのように東日本大震災を乗り越えてきたのか、全国・全世界のニュースでは語られない、「等身大の福島人の今」福島からあなたへのラブレター。



コンペティション部門および
アートプロジェクトから合計20作品を上映します
スケジュールは2/1以後に公式サイトで
公開いたします

アート・プロジェクト「Strangers in Sendai」

アート活動をしていると、少数者の立場に置かれた人とよく出会います。障害者、外国人や宗教者、学校や教室に行かないことを選択した子どもたち、受刑者…出会いだけでなく、いつの間にかいっしょに活動していることが多いあります。アーティストもいわば「少数者」です。なぜ世間の人と同じように「普通」にできないのかと、よく言われてきました。それを多数者視点の言語コミュニケーションによって容易に伝えられるのであれば、それはもう少数者ではないでしょう。その「見えない存在」「聞こえない声」を、多数者視点の見える存在、聞こえる声にすることなく、出会い、聞こうすることはできないのだろうか？というのが本事業の課題意識であり、私がアート活動を続けている理由です。（門脇篤）



吐く息の奥で。

園端石作

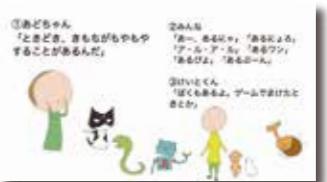
2022年からインターネット主軸に作品を投稿。主にボーカロイドを用いて音楽を制作。数年前に寝込んでいるばかりの日々を送っていたのですが、それらを思い返しながらつくりました。



ぐるり自転車18区

門脇篤監督

(日本、2025年、34分)
横浜のこどもたちと筋肉をきたえる自転車の旅に出る監督。パラダイスはどこか遠くではなく今ここにあり、ディズニーランドの次に楽しい体験は時に自分たちでも掘り当てができるのだ。



子どものけんりじょうやく

門脇篤 ft. 絵画株式会社

(日本、2026年、約10分)

とみやっこプレーパークに集う何人かの子どもたちが「仕事をしたい」というので始まった「絵画株式会社」が、子どもアドボカシーセンターみやぎの協力を得て作り上げたムービー紙芝居。



境界線上のバリア～バウンダリって何ですか？

監督：ぎんじやけん ft. せこ三平
(日本、2025年、59分)

障害と健常、病気と健康、人と人、人と世界の境界線はどこにあるのか？心の境界線を引くとは？当事者と呼ばれる人たちの切実な本音が語られる。「障害名で呼ばれると、まるで人間じゃなくて障害名になったような気がする」果たして、ぎんじやけんは境界線に何を見たのか？



パレスチナ・レポート(完全版)

門脇篤監督

(日本、パレスチナ、2026年、約100分)
ひよんなどからパレスチナを訪れた監督が、まるで最初から台本に書かれていたかのように旅先に現れる人たちを撮ったナチュラルなドキュメンタリー。2023年の「ボーダレス映画祭」で初上映し、その後、各地で上映するたびに少しづつ手を加えて来たものがよいよ完成。